

公表 保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

公表日 2026年 1月 20日

事業所名 こばんはうすさくら 広島井口教室

保護者等数(児童数) 16名 回収数 14件(割合87%)

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	6			土日のみもしかしたらスペースが狭いのかとも思いました。(人数が多くなるため)少し狭いかなと思います。	受け入れ人数の制限や、活動場所を柔軟に変更することで対応してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	1		5		お出かけや児童の特性に合わせて、必要に応じて職員を配置してまいります。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、パリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているだと思いますか。	11	2		1		スケジュールボードや絵カードを使用し、視覚的に分かりやすい教室づくりを心掛けています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	1		1	私事ですが、おおいに少し敏感なところがあって、教室の独特のにおいが少しになります。	床マットの清掃をした際に、においが残り不快な思いをさせてしまいました。マットを張り替えることで対応させていただきました。
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	3		2		スタッフの専門性を高め、お子さまの特性に合わせた支援が行えるようにしてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12	1		1		支援プログラムに合致した支援内容を実施してまいります。
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	12	2				今後とも保護者様とご相談させていただき、個別支援計画を作成してまいります。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	2		1		必要とする支援内容を選択し、実施できるように努めてまいります。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	1		1		支援計画を確認しながら、児童に適した支援を行ってまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	2		2		同じイベントでもルールを少し変更したりして、子どもたちが飽きないようにプログラムを考えてまいります。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	5		3	6	たまに廿日市のこばんと合同だと聞いています。	少しでも交流できるように地域のお祭りなどに参加する機会を作ってまいります。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					契約時に丁寧に分かりやすく説明してまいります。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					電話やお聞き取り表でのやり取りを踏まえて、計画を作成し、ご説明させていただきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	2	5	6		市から来た研修会の案内などを今後は配布してまいります。
保護者への説明等	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	11	3				保護者様の認識を理解できるように、お話を聞きたいと思います。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	2		2	まだ受けた事がない為。	面談のご希望がありましたら、お気軽にご連絡ください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	4				お子様のご様子など困りごとなどありましたら、遠慮なくご相談ください。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	2	7	4		働いている保護者様も多く、教室の収容人数も限られていることから父母会は難しいと考えております。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	3	1	2		ご相談などありましたら、お気軽にお問合せください。連絡帳や面談でも対応させていただきます。

保護者への説明等	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	1		1		連絡帳やLINE、送迎時のご連絡など、保護者様との意思疎通の機会を多く持てるようしております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	2		1		Instagramやお知らせなどに載せ、情報を分かりやすく伝えてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されているだと思いますか。	12	1		1		書類の個人名や写真の取り扱いなどに今後とも気をつけてまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	2		5		保護者様への周知が不十分な点があるため、面談時など適宜説明をしてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	3		5	訓練をしているかは分からない。	定期的な訓練の実施について、保護者様に分かりやすく伝えてまいります。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	3		2		安全マニュアルについての周知をしてまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	2		4		迅速にご連絡をするように努めてまいります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	13			1		基本的な安心感を持つていただけるように子ども達に接してまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	11	1		2		楽しみにしていただけるような事業所づくりをしてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	2		1		支援にご満足いただけるようにアンケートを役立ててまいります。

公表日

2026年 1月 20日

事業所名

こばんはうすさくら 広島井口教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10			人数によっては教室が狭く感じることもあるため、活動場所や時間を区切って使用しています。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		特性を鑑みて、職員を多めに配置しています。	職員の総数から、人数的配慮が難しい場合もあります。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		絵カードを使い、時間割りやおもちゃを分かりやすく明示しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		清潔に過ごせるようにエアコンなどの掃除を頻繁に行っています。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	個室がないため、落ち着く場所としてトイレやマットで区切られた空間を使用しています。	死角となるため、安全にも注意を払っています。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	6	ミーティングや業務終了後の振り返りなどを利用しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	3		なかなか改善につなげられていない部分もあります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	出来事を利用し、職員の意見を把握する場所としています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	5	定期的にSVに訪問してもらい、義務化事項や支援計画など相談に乗ってもらっています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内などで研修を開催する機会が確保されているか。	8	2	研修の案内をファイルにまとめ、情報を共有しています。	意欲的に参加する職員と、そうでない職員がいますが、時間を作り、研修に参加できる機会を設けるようにしています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		適切に支援プログラムを作成し、公表しています。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	1	専用の用紙や電話での聞き取りを利用し、ニーズを支援計画に反映させています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	2	児発管を中心にして、職員に対して聞き取りを行い、子どもの理解を深めています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	児童の様子を記入する際に、支援計画を確認できるようにファイルに入っています。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	3		アセスメントツールがなく、使用することが難しいです。様子を観察する中で、ツールに書き込む時間ないです。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	5		家族への支援が重要になっているため、面談などで保護者の悩み事にも向き合っています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1		活動プログラムがマンネリ化しているため、新たなプログラムを考えています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2	子ども達の意見も聞き、活動プログラムを変化させています。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	1		短時間で、個別と集団を組み合わせることが難しい子もいるため、集団活動の中でも個別の役割を持たせるようにします。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	2	朝のミーティングで確認しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3		パートの職員の話を聞けずに終わる時があるため、空いた時間に気づいた点などを確認するようにします。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		その日利用する児童の記録を前日に準備し、記入漏れのないようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	2	定期的に見直しを行っています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	2	主に児発管が職員からの情報をまとめて、参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	5		主治医との具体的な連携が難しく、間に保護者様を介してのやりとりとなってしまいます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行なうなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	3	保育所等に訪問し、利用児童に関して情報共有を行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	5		児発から上がってくる子は引継ぎ等していますが、放デイを見据えての利用者は保育園等と連携をしていない場合もあります。
関係機関や保護者との連携	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	3		なかなか連携が難しい時があります。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	9	1		利用児童の保育園や幼稚園とのかかわりは持ていません。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		連絡帳やLINE等で状況を伝え合っています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5	研修の情報などをLINEで連絡したり、保護者様とのご相談の中で情報提供を行っています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時に丁寧に説明を行っていますが、後々疑問点などあつた場合にも丁寧に質問にお答えしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		アセスメントを丁寧にとり、保護者様の悩みに寄り添ってお聴き取りをしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	2	直接説明できない場合にはLINEや電話など、保護者様の状況に合わせた同意や確認の取り方をしています。	
保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		連絡帳に書いている最近のご様子など気になることがあれば、すぐに連絡をとるようにしています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	6		父母会などを開催するノウハウがなく、いまだに開催に踏み切れていないです。年明けに小規模の茶話会を計画しています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		苦情には速やかに対応し、スタッフを含めて対応を模索しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		お知らせだけでなく、インスタグラムなどのSNSを使用し、子ども達の活動を伝えています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			個人情報の記載された用紙の処分が不十分な所があったため、すぐに処分することを徹底していきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		認識の齟齬がないように、LINEでの文章や電話口での確認を怠らないようにしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	2		事業所が狭く、招くことは難しいため、地域の行事に積極的に参加していき、交流を図っています。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	2	面談室にマニュアル等を置き、誰でも閲覧できるようにしています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	4	社員同士での机上訓練や児童を伴っての必要な訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	3	契約時のアセスメントでお聞き取りしています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	食物アレルギーを持つ児童の顔写真を冷蔵庫やおやつ箱に貼り、注意しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1	安全計画に基づいて研修や訓練を実施しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	2		周知不十分な点があり、わかりやすく定期的に周知することが必要だと考えています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1		ヒヤリハット発生時に記入する時間を取りにくいため、メモに記入し、ヒヤリハットを集めていけるようにしていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	虐待に倣する行動なのではないかと疑問が生じた際には、適宜委員会を開催し、その行動について考えています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	1		身体拘束を行う事案がまだないため、計画書等への記載はないです。